

はじめに

子どもが大人になっていくときには、さまざまな困難と苦痛を経験していきます。しかし、だからと言って周りの大人が、子どもが苦しまないように、困難な状況を簡単に通り過ぎることが出来るようにしていくことが大切なわけではありません。子どもは、お母さんの子宮から生まれ出たときから、社会という荒波に出て行かなければならない運命を背負っています。いつまでも、お母さんの暖かな胸の中に居続けることはできません。自分の人生を歩むために、さまざまな別れや困難を経験していくことを繰り返して子どもは大人になっていきます。大切なのは、つまずき転びながら大人になっていく子どもを、決して見捨てることなく、寄り添いながら見守ることのできる大人の存在です。転ばないように大人がずっと抱っこし続けるのではなく、転んでも転んでも、ひざを擦り傷だらけにしながら懸命に自分の力で歩いていこうとする子どもを応援し、見守り続けることが大切ではないでしょうか。自分たちが通り過ぎた思春期を思い浮かべながら、私たちの後に続き、社会に羽ばたこうとしていく子どもたちを支えていきたいと思います。